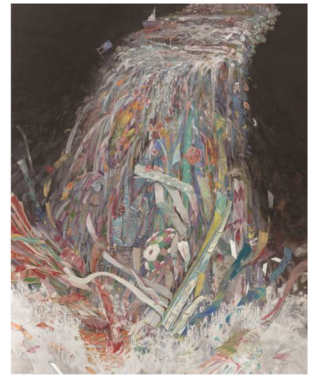




【トワイライト】 2023/1167×1167mm/麻紙、岩絵具、膠



【Illusion】 2023/455×380mm/麻紙、岩絵具、膠



【記憶の昇落下】 2016/2273×1818mm/麻紙、岩絵具、銀箔、膠

N.E. blood 21 Vol. 85 AYAKA TADANO EXHIBITION



【温かな沼】 2020/1167×1167mm/麻紙、岩絵具、銀箔、膠



【彩歩き】 2021/1940×1303mm/麻紙、岩絵具、膠

「NE.blood 21」は精力的に制作、発表活動を行う東北・北海道在住若手作家を紹介するシリーズ企画です。美術館とアーティストとの新しい関係を模索しつつ、作家同士のネットワーク形成を念頭に置き展覧会を開催しています。第85回目となる本展では宮城県在住の作家 只野彩佳(ただの・あやか)を紹介します。

只野は1992年宮城県生まれ、2018年東京藝術大学大学院美術研究科芸術学専攻美術教育修士課程を修了。日本画画材を用いた風景作品を制作し、多くの個展・グループ展にて発表、高い評価を受けています。

只野は過去の個展で「汀線(ていせん)」という言葉を使っています。それは主に海と陸の境界線を指し、波や潮の干満などによって絶えず変動しています。留まることがなく移り変わる自然の景色。只野はその刹那を切り取り、和紙に岩絵具という日本画の手法を用いて描いています。

流れ漂う雲、風に揺らめく木々や草花、陽に映える水面や山稜。景色を織り成す多くのモチーフは、まるで魔法をかけられたかのように豊かな光彩を放ち、その場の空気を孕んだより一層印象深い絵画となって私たちの脳裏に刻まれます。

本展では近年に制作された大型作品を中心に小さなピースで構成される130号サイズの新作等を含む約20点を展示します。

只野彩佳 ただの・あやか 略年譜

- 1992年 宮城県生まれ
- 2016年 武蔵野美術大学造形学部日本画学科 卒業
- 2018年 東京藝術大学大学院美術研究科芸術学専攻美術教育 修士課程修了
- 2023年 雪梁舎美術館の支援を受けフィレンツェに滞在、Accademia di Belle Arti di Firenze 留学(3月-6月)

主な活動歴

- 2022年 只野彩佳 個展(フレデリックハリスギャラリー・東京アメリカンクラブ)
- 2021年 「移り変わる汀線」只野彩佳 個展(秋保の杜 佐々木美術館&人形館)
- 2021年 FACE2022 読売新聞社賞 受賞
- 2021年 雲ノ山荘アーティスト・イン・レジデンス・プログラム2021 参加
- 2021年 第23回雪梁舎フィレンツェ賞展 フィレンツェ大賞 受賞
- 2017年 東京藝術大学安宅賞 受賞
- 2014年度三菱商事アート・ゲート・プログラム奨学生



リアス・アーク美術館
ホームページQRコード



同時開催
N.E.blood 21
Vol.84
かみろから
狩野宏明展
絵画/山形県在住
<観覧無料>

リアス・アーク美術館利用案内 ●常設展①美術作品展 ②歴史民俗資料展＝舟日記一海と山を生きる民あらしー ③東日本大震災の記録と津波の災害史展【常設観覧料＝一般700(600)円/大学・専門学生:600(500)円/高校生:500(400)円/小中学生:350(250)円 ※①内は20名以上の団体料金を】 ●ワークショップ＝日を中心に開催するアトリエ ●レストラン「キッチンスペース夢の舎」＝地元食材中心の創作料理をご提供。日替りランチ、シーフード系バスタ・カレー・ラーメンが人気です。

●三陸自動車道【気仙沼中央IC】から約5km(仙台市から約115km/石巻市から約70km/陸前高田市から約25km)
●東北自動車道【一関IC】から約50km ◆無料駐車場あり(普通37台・大型5台)

●東北新幹線【一ノ関】(大船渡線)―【気仙沼】―【気仙沼】―【気仙沼】▶気仙沼駅からタクシー(約15分)をご利用ください。 ※【タクシー割引券】と「常設展観覧券」換券のネットワーク・ボンスが気仙沼駅前観光案内所、(一社)気仙沼市観光協会(電話:0226-22-4560)で販売中。 ※現在、気仙沼線【前谷地-気仙沼】間、大船渡線【区-気仙沼】間はBRT運行。